

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け

作成年月日		平成30年6月29日	長崎県総合計画記載ページ	138	P
将来像	安心快適な暮らし広がる長崎県	施策主管所属	企画振興部 新幹線・総合交通対策課		
基本戦略名	10 にぎわいと暮らしを支える社会基盤を整備する	課(室)長名	課長 早稲田 智仁		
施策名	(2) 離島・半島等の暮らしと交流を支える地域公共交通の確保	施策関係所属(部局名課名)			

1 施策の内容

【取組の概要】 運賃低廉化の推進や公共交通の経営安定への支援、広域的な二次交通の整備、離島・半島等の暮らしと交流を支える地域公共交通の確保と活性化に取り組みます。	【めざす姿】 公共交通が維持され、県民の皆さんの地域交通への不安が解消されている。
--	--

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価																						
<input checked="" type="checkbox"/> A : 順調 <input type="checkbox"/> B : やや遅れている <input type="checkbox"/> C : 遅れている																						
<<これまでの成果>> ● 県内の離島補助航路において、航路の確保・維持・改善に繋がる計画を策定し、その計画に従い適切に事業が実施されたことにより、生活航路が安定的に運航された。 ● 県内の補助生活交通路線において、生活交通路線の確保・維持・改善に繋がる計画を策定し、その計画に従い適切に事業が実施されたことにより、生活バス路線が安定的に運行された。 ● 松浦鉄道及び島原鉄道への施設整備補助により、レール更新、マクラ木交換など安全確保に必要な不可欠な整備ができ、安全運行の確保に寄与することができた。 ● 離島住民の生活に必要な旅客輸送の確保のための運航費への助成や重整備に対する助成、一定の利用率に達しない路線の収支不足額に対する助成を行った結果、県内離島航空路線の維持・確保がなされた。 ● 有人国境離島法の運賃低廉化施策により、平成29年度の利用者数が前年度と比較して、航路が3.4%の増、航空路が7.5%の増となった。	<table border="1"> <caption>公共交通機関の維持路線数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>100</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>100</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>100</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	実績値	H26	100	98	H28	100	96	H29	100	94	H30	100	100	H31	100	100	H32	100	100
年度	目標値	実績値																				
H26	100	98																				
H28	100	96																				
H29	100	94																				
H30	100	100																				
H31	100	100																				
H32	100	100																				
<<進捗状況に課題がみられる分野>>																						

3 施策の成果指標の進捗状況

指標	基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
公共交通機関(鉄道・バス・航路・航空路)の維持路線数	目標値①	/	100路線	100路線	100路線	100路線	100路線(H32年度)	路線バスについては、補助対象路線の減少により目標値に届かなかったが、路線自体は市町補助により維持継続。 航路については、欠損補助や運営資金の貸付により、路線数を維持できた。 鉄道については、松浦鉄道及び島原鉄道への施設整備補助により、レール更新、マクラ木交換など安全確保に必要な不可欠な整備ができ、路線維持に寄与することができた。 航空路については、離島住民の生活に必要な旅客輸送の確保のための運航費への助成や重整備に対する助成、一定の利用率に達しない路線の収支不足額に対する助成を行った結果、県内離島航空路線の維持・確保がなされた。
	実績値②	98路線(H26年度)	96路線	94路線	/	/	進捗状況	
	②/①	/	96%	94%	/	/	遅れ	

4 新たな課題や社会情勢の変化等

- 松浦鉄道及び島原鉄道の施設整備への支援により、両鉄道の安全運行を確保することができたが、人口減少など利用人員の減少が見込まれる中、地域鉄道を引き続き維持する必要がある。
- ORCの経営は就航路線の利用者となる離島人口の減少に加え、飛行距離が短く離発着回数が多くならざるを得ないという構造的な不経済性や機材の経年化による整備費用の増加により厳しい環境にある。そのため、経営基盤を強化し、路線の安定的な維持を図る必要がある。
- 人口減少社会の中、乗合バスの輸送人員は減少傾向にあるが、乗合バスの補助路線は、住民の通院や買い物などの生活に必要不可欠なものであり、住民の移動手段として大きな役割を果たしているため、今後もバス路線の維持確保を図る必要がある。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

- 施設整備10ヶ年計画に基づき着実に整備を実施するとともに、さらなる利用促進を図る必要がある。
- ORCの新規路線2機目就航を目指し、ANAや地元市、長崎空港ビルディング株式会社（NABIC）等関係者と協力してORCの経営基盤や体制強化を図る。
- 住民の生活に必要不可欠な乗合バスの補助路線を維持確保するため、今後も補助を継続するとともに、事業者による各種取組を支援していく。

6 施策を推進する事業群の状況

- | | |
|---|--------------------|
| 事業群①「地域活性化につながる地域公共交通の基盤強化」 | 事業群評価調書10-(2)-①②参照 |
| 事業群②「地域公共交通の経営安定とまちづくり、観光振興等の地域戦略との連携の促進」 | 事業群評価調書10-(2)-①②参照 |